

# シンポジウム



## 千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校

2024.12.13  
2024.12.16  
2024.12.17

先日、JSレベルの学生たちが、3ヶ月間の「アカデミック・ジャパニーズ」授業の集大成として、シンポジウムを行いました。テーマは「科学技術の進歩は人類を幸福にするか」です。学生たちは、これまでの講義や討論活動、レポート作成などを通して深めた知識や見識をもとに自分たちの意見をまとめ、その成果を発表しました。

「アカデミック・ジャパニーズ」の授業では、「歴史」「生命倫理」「経済学」「環境問題」など幅広い分野に触れながら、科学技術の恩恵や、社会・生命倫理への影響などを多角的に考察してきました。討論に必要なスキルを身につけるために、資料の読み取りや進行の練習、意見交換のための適切な表現や必要となる姿勢などを学び、クラス全体で活発な議論を重ねてきたことが大きな特徴です。

シンポジウム当日は、司会やパネリスト、他クラスからの参加者などがそれぞれの役割を果たし、質疑応答や討論が大いに盛り上がりました。「AIが発展すれば生活は便利になるが、人間らしさはどうなるのか」「遺伝子操作による医療の進歩は良い面だけなのか」など、授業で培った知識をもとに、鋭い質問が飛び交い、白熱した場となりました。

参加した学生たちからは、「大勢の人の前で話すのは緊張したが、リハーサルやクラス内での討論練習がとても役に立ち、自信につながった」「他の人の視点を知り、科学技術のメリットやデメリットを改めて考え直すよい機会になった」といった感想が寄せられています。

今回のシンポジウムは、学生たちにとってプレゼンテーション能力やディスカッション力を実践的に試すことができる貴重な場となりました。進学後の研究や発表の場でも、今回の経験が大いに活かされることと思います。

